

## 6.3 教育方法のあり方

### 進捗状況報告

1. クラス規模については、まず「基礎演習」を1クラスあたりの学生数を減らすために2008年度より1クラス増やし、2009年度よりもう1クラス増やすことが検討されている。また、「研究演習」については選択化することによって1クラスあたりの定員を減らし、一方で多くの学生が履修できるようにクラス数を増やす方策が検討されている。ただし、クラス数を増やすことは教員負担が増大することになるので、根本的な解決のためには、いわゆるST比の改善が望まれる。
2. 授業時間外の学習やプロジェクト学習の発表の場を増やすために、予算措置を含めた検討が学部執行部で行われてきており、現在、担当委員会で具体的な案を策定中である。
3. 授業での情報機器等利用の促進は、全学的なインフラの整備が必要不可欠である。2007年度は、多くの教室での無線LAN接続が可能になり、またプロジェクタ備付けの教室も徐々に増えてきている。学部としては、担当委員会や資料準備室で、これらの機器利用のサポートを引き続き行っている。なお、遠隔授業については、現時点ではその必要性があるような授業は開講されていない。
4. カリキュラム改革全般については、2007年度に学部執行部、教授会、担当委員会で集中的に議論されてきた。担当委員会には4つの部会があり、各部会でも授業担当者を中心に現状の分析と改善を議論してきた。2008年度中に、これらの議論を踏まえたカリキュラム改革を行う予定である。

### 学内第三者評価

2003年度に設定した目標は具体的なものであるが、その実現には基本的な教育体制に関わる項目（例えば、授業時間外学習への予算措置やST比）も少なくなく、今後の展開が期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
少人数クラスの実現、インフラ整備などに改善が見られる。